ふるさとへの思いと絆をつなぐ広報誌

平成28年9月20日発行（毎月1回20日発行）

ふるさとだより 9

2016年
SEPTEMBER
NO.63

久之浜・大久、四倉、平、小名浜、勿来

表紙からMessage

子どもたちが勇ましい姿を披露

8月27日に宵祭り、28日に本祭りと2日間に渡って行われた江名獅子祭。江名小の子どもたち10名が、江名諏訪神社境内で獅子舞を奉納したのち、江名や折戸地区内の計16ヵ所でも披露。見物に来た地域住民の方から、たくさんの拍手や歓声が湧き上がりました。

各地区トピックス

第３回浜の夏祭り……2
四倉中が豪代表を応援……3
ふくしまみなと未来塾……4
江名に伝わる獅子舞……5
みんなで絆げる地域の「わ」……6
ふるさとダイアリー……7

ふるさとだよりの記事が動画で!!

COCOAR

マークのある記事にスマホやタブレットをかざすと動画が見られます！（見方はP8）

ふるさとの未来へ向けて

土地区画整理事業 水上工区で宅地引き渡し

震災復興土地区画整理事業により進められていた、水上工区の宅地造成工事が終了し、地権者に引き渡されました。今回引き渡された工区は、面積約3・1ha、全64区画。

8月19日、現地見学会が開かれ、多くの地権者が土地の境界線や出入り間口の確認を行っていました。この日、現地を訪れ、土地の確認をした新妻彰英さんは「震災から5年半、我慢の日々だった。次の一歩を踏み出し、自宅の再建を目指したい」と抱負を語りました。

生活再建の礎となる、水上工区全64区画

市担当職員から説明を受ける新妻さん（中央）

新たな伝統と夏の風物詩へ 第3回浜の夏祭り

8月11日、第3回浜の夏祭りが久之浜漁港で行われました。土地区画整理事業の土地造成と、蔭磯橋の架け替え工事のため、今年は会場を移しての開催となりました。

午後1時、祭りがスタート。多くの出演者がステージを盛り上げます。

そして午後7時。東日本大震災の被災地の岩手、宮城、県内では南相馬と久之浜の夜空に、鎮魂の思いを込めた「ライトアップニッポン」の花火が同時に打ち上がりました。

その後、大漁旗で飾られた櫓を中心に盆踊りの輪が広がり、再び約千発の花火が夜空を彩りました。50年間途絶えていた祭りを3年前から復活させ、新たな伝統行事として後世に受け継がれることを願い、熱い一日が終わりました。

鎮魂と復興への願いを乗せて打ち上がる花火

ステージイベントで会場を盛り上げる海神乱舞

久之浜・大久ピックアップ

鎮魂の和太鼓演奏

8月21日、久之浜漁港で御諏訪太鼓と大久の和太鼓疾風（代表佐藤廣之さん）による合同鎮魂演奏会が開かれました。

勇壮な音が響き渡る鎮魂演奏

フラワーアレンジメント教室

8月24日、久之浜公民館で、久之浜出身の音楽ユニット「花音」のボーカルでフラワーアーティスト岡崎奈津美さん指導による、フラワーアレンジメント教室が開かれました。

岡崎さんの指導で作品作り

筒木原滝不動尊夏祭り

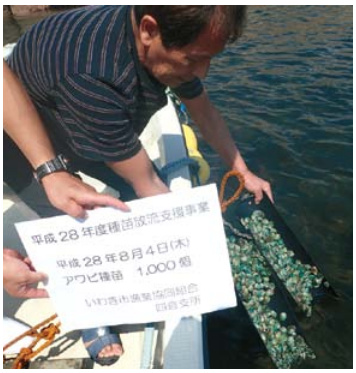
8月27日、400年以上続く伝統の筒木原滝不動大祭典宵祭り盆踊り大会が行われ、地元の筒木原青年会が祭りを盛り上げました。

多くの人出で賑わった境内

ふるさとの未来へ向けて

アワビの稚貝を放流

8月4日、県栽培漁業協会が育てたアワビの稚貝2万個が、市内9地区の採鮑組合と相馬市の漁業者に引き渡されました。このうち四倉採鮑組合では、組合員が千個の稚貝を四倉漁港内の磯場に放流しました。



漁船から磯場に稚貝を放流する組合員

3千発の花火が夜空を彩る

8月16日、四倉鎮魂・復興花火大会が四倉海岸で開かれ、多くの見物客で賑わいました。今年は県の「いわきの復興を担う地域コミュニティ重点支援事業」の補助を受けており、会場には双葉郡から市内に移り住んだ方々と、地域のみなさんとの交流スペースも設けられました。

時折降る強い雨の中、四倉海岸から打ち上げられた花火

四倉中が豪代表を応援

8月7日まで開催された「第3回WBSC U-15ベースボールワールドカップ」。市内の中学校が参加チームを応援する「一校一国運動」で、四倉中はオーストラリア代表を担当しました。

8月2日、いわきグリーンスタジアムで行われた韓国戦では、約130名の四倉中の生徒に加え、久之浜中と小川中の野球部員もスタンドに駆けつけました。四倉中の野球部員が応援の音頭を取り、吹奏楽部員がこの日のために練習してきた応援マーチを演奏して、試合を盛り上げました。

試合後、四倉中の体育館で歓迎会が開かれ、代表チームの選手と生徒たちが記念撮影などで交流を深めました。

英語でのコミュニケーションで親睦を深めた歓迎会

真夏の太陽の下、グラウンドに声援を送る野球部員

四倉ピックアップ

ホコ天に多くの来場者

8月7日「第25歩仲町ホコ天ブラブラリー」が開かれ、会場には多くの模擬店が並んだほか、本町青年義団による笠踊りや四倉中吹奏楽部の演奏などがありました。

笑顔があふれた仲町商店街

初開催の盆踊り

8月14日・15日、盆踊り大会が海嶽寺で初めて開かれ、会場には模擬店が並び、参加者は祭り囃子に合わせて、盆踊りや昨年復活した四倉音頭を踊りました。

やぐらを囲んで踊る来場者

賑わう楽寿荘夏祭り

8月27日、上仁井田の楽寿荘で夏祭りが開かれ、来場者は盆踊りや買い物をしたほか、じゃんがら念仏踊り、よさこい、打ち上げ花火などのアトラクションを楽しみました。

子どもじゃんがらも熱演

ふるさとの未来へ向けて

郷土の獅子祭り（豊間地区・沼ノ内地区）

豊間、沼ノ内の両地区で約400年続く獅子祭りが、今年も沼ノ内は8月20日、豊間が27・28日にそれぞれの地区内で行われました。

今年から再開された漁港で舞いを披露

沼ノ内地区では、震災以降初めて漁港内で舞いを披露しました。豊間地区では舞い手をはじめ、笛や太鼓なども若手に受け継がれるなど、今後の地域伝統継承に明るい話題となりました。

豊間獅子舞本祭りの様子

宵祭りでデビューした２人の女子

福島の漁業と伝統芸能を知ろう

8月27日、小名浜のさんかく倉庫でNPO団体MOVE主催の「ふくしまみなと未来塾in浜通り」を開催。東京都港区から大型バスで45名の親子連れが参加し、地元からは、獅子舞（沼ノ内区）、じゃんがら（平窪子どもじゃんがら）、あんばさまの唄（豊間浜菊会）の伝統芸能団体が参加しました。

一行は、漁業関係者から現在の取り組みなどの説明を聞いた後、旬のカツオを使った郷土料理に舌鼓。地元の団体による伝統芸能の披露もあり、親子で楽しめる内容でした。訪れた参加者からは「福島の漁業について報道などでは分からなかったことを知り、有意義だった。子どもたちの笑顔が見れて良かった」といった声も聞かれました。

子どもたち同士が伝統芸能を通して交流

子どもたちの伝統芸能を熱心に鑑賞

平ピックアップ

高校生フラチームが訪問

7月31日、沼ノ内団地・薄磯団地自治会の祭りに昌平高校のフラダンスチーム「ウイラニ・ホア・ヘレ」が訪れ、フラを披露しました。

薄磯団地の住民らの前で踊るメンバーたち

U−15日本代表薄磯視察

8月3日、大会予備日にWBSC U−15日本代表選手たちが薄磯地区の防災緑地見学広場を訪れ、震災犠牲者の方々に向けて黙とうをしました。

大会への決意を誓う選手たち

被災地をタスキでつなぐ

未来（あした）への道1000km縦断リレー2016。青森―東京間の被災地をランニングと自転車でつなぐリレーが行われ、8月3日、塩屋崎灯台の下でたすきがつながれました。

自転車ライダーからたすきがつながれたランナーたち

ふるさとの未来へ向けて

いわき東警察署 水上派出所が再開

水上派出所は、小名浜港に駐留している県内で唯一の警備艇「おなはま」の活動拠点として、港湾と沿岸海域の治安維持に貢献してきました。しかし、震災の津波により全壊したため、震災後はいわき東警察署を拠点とし、必要な設備を車に搭載して、業務を行ってきました。

再開に向けて進められていた工事が完了し、7月29日に開所式を実施。式には署員と県警本部、関係者など約50名が出席しました。

震災の教訓から、建物1階に車庫、2階に執務室、3階に仮眠室と港湾を見渡せるスペースを配置。派出所には、署員2名と警備艇の乗組員4名が勤務します。

福田浩章所長は「地域のみなさまの期待に応えられるよう、沿岸海域の警戒活動の強化に努めたい」と気持ちを新たにしていました。

新たに完成した派出所前でテープカットを行い、開所を祝う関係者

江名に伝わる獅子舞 受け継がれる伝統行事

明和6（1769）年頃から始まったと言われている江名の獅子舞は、大漁祈願・子孫繁栄・五穀豊穣などを祈る伝統芸能です。

今年2月に江名小の子どもたちを対象に、獅子舞の舞い手を募集。4～6年生の計10名が集まりました。

今年3月からは、江名諏訪神社の社務所で、平下高久在住の戸部修二さんの指導により毎週2回練習を行い、本番に向けて取り組んできました。練習の様子を見守っていた同神社の禰宜（ねぎ）・江名守康（もりやす）さんは「未来に向けて残していけるよう、子どもたちに頑張ってほしい」と話していました。

江名諏訪神社境内での奉納（本祭り）

熱心に練習をする子どもたち

小名浜ピックアップ

賑わう中之作の朝

8月6日、中之作魚市場で、第9回中之作朝市が開催されました。鮮魚や地元製造の水産加工品などを求めて、たくさんの方々が足を運びました。

買い物客であふれる魚市場

盆踊りで賑わう江名港

8月14日、江名区盆踊り大会が開催されました。御詠歌（ごえいか）の奉納や江名小のよさこい、いわき海星高のじゃんがら念仏踊りのあと、盆踊りが始まり、多くの地域住民の方が参加しました。

家族連れも多数参加

音楽で交流、ミニコンサート

8月23日、震災後から江名地区でボランティア活動を行っている埼玉県立所沢西高校吹奏楽部の学生による演奏会が、江名公民館で行われました。

江名中吹奏楽部との合同演奏

ふるさとの未来へ向けて

小浜町　渚1号橋（仮称）工事進捗状況

震災復興土地区画整理事業に伴い、平成27年3月から施工開始した小浜町の渚1号橋（仮称）は、今年10月末の完成を目指して工事が進められています。

架け替えに伴い、幅員も広くなった同橋（8月4日撮影）

勿来ピックアップ

見頃を迎えた田んぼアート

今年6月5日に山田町で田植えが行われた田んぼアートが見頃を迎え、市制50周年のロゴマークをモチーフにしたデザインが、綺麗に浮かび上がりました。

ひと際目を引く田んぼアート（8月5日撮影）

昔遊びにチャレンジ！

8月17日、「子ども元気センターで遊ぼう!」が同センターで初開催され、子どもたちが皿回しやゴム鉄砲などの昔遊びに挑戦しました。

コツをつかむまで何度も挑戦

防災を学んだ夏休み

8月20・21日、レッドベアいわき防災サマーキャンプin勿来が植田公民館で行われ、子どもたちがゲーム形式で防災知識を学びました。

協力してバケツリレーに挑戦

”人の和　まちの輪　自然の環“

みんなで絆（つな）げる地域の「わ」 Part.3

8月16日、「第3回小浜と岩間『わ』の集い」が行われ、小浜海岸での「左義長（さぎちょう）」が32年ぶりに復活しました。

「左義長」とは一般的には小正月に行われる火祭りですが、漁港のある小浜町では、毎年8月16日に送り火として行っていました。若者の減少から、昭和59年に途絶えてしまいましたが、今年、かつての小浜青年団を中心に、若手の力も借りながら実施することになりました。

当日は、以前も実施していたことがあるという盆踊りも行われ、地域住民自らがお囃子を担当。その後、15本の孟宗竹に巻き付けた麦わらに火を点け、左義長が始まりました。夜空を照らす炎を見つめながら、参加者は地元の伝統行事復活に喜びを噛み締めていました。

紅白幕の代わりに大漁旗を使用した櫓は、小浜ならではの風情

焼きそばやフランクフルトも振る舞われ、会話を弾ませる地域住民

ふるさとダイアリー

四倉

過ぎゆく夏を惜しんで

8月21日、上仁井田諏訪神社で夏まつりが開かれ、境内にはかき氷や焼きそばなどの模擬店が並んだほか、ステージではカラオケ大会やフラダンスの披露がありました。

上仁井田諏訪神社

下仁井田諏訪神社

8月27日、下仁井田諏訪神社で盆踊り大会が開かれ、境内に設けられたやぐらの前で、思い思いに仮装した参加者が、盆踊りや模擬店での買い物を楽しみました。

平

西会津との26年の絆

昨年、震災以来4年振りに再開された豊間小と西会津小のいわき交流会。今年は8月5、6日にいわき海浜自然の家で行われました。今回から磯遊びが再開され、両校の児童たちは夏を満喫しました。

小名浜

小名浜の夜空に響く「ドンワッセ!」

8月5日、いわきおどり小名浜大会が行われました。今年は、震災後最多となる64団体・約2,600名が参加。今年は、団結力のある踊りを見せた「小名浜精錬チーム」が優勝しました。

小名浜港で大歓声!

8月6日、いわき花火大会が開催されました。今年は市制施行50周年、小名浜港開港60周年の記念大会となり、2万発の花火で来場者を魅了しました。

久之浜・大久

楽しかったネ!夏祭り

7月29日、久之浜保育所で夏祭りが開かれました。皆が輪になって楽しく踊った盆踊り。子どもたちは、かき氷を食べ、風船釣りやスマートボールすくいを楽しみました。

久之浜保育所

久之浜第一幼稚園

7月31日、平第一幼稚園と久之浜第一幼稚園合同の夏祭りが開かれました。教室ではボウリングや輪投げなどのゲーム、園庭では手作りのお面をつけて盆踊りをしました。

夏休み子ども教室

8月2日、久之浜一小体育館で、市青少年育成市民会議久之浜・大久地区推進協議会主催の夏休み子ども教室が開かれました。久之浜駐在所長・伊藤秀介さんの指紋検出の簡易実験に参加した60名の子どもたちは興味津々。その後、スイカ割大会も行われました。

勿来

「かるたんか」ワークショップ

現在、勿来地区をテーマにしたかるたの制作を進めている勿来と双葉の共生コミュニティデザイン事業。読み札となる短歌の募集に伴い、勉強会が8月21日に勿来の関公園「吹風殿(すいふうでん)」で開催されました。市短歌連盟会長の伊藤正幸さんを講師に、短歌の歴史やしくみを勉強。最後は実際に短歌を作り、かるたの読み札として提出しました。

いわき市 ふるさとだより 第63号 平成28年9月20日発行
●発行:いわき市 ●編集:有限会社 いまぁじゅ ふるさとだより編集室
●編集室:〒973-8411 福島県いわき市小島町3丁目3-3 プリンセス・アイ1F
Tel&Fax:0246-26-5157
Mail:furusato@asally.co.jp http://www.furusatodayori.com

お知らせ

震災復興・生活道路再生事業 道路通報サービス　試験運用を開始

市は、安全で快適に過ごせる環境を目指し、スマートフォンやタブレット端末を利用した、道路の通報サービスを開始しました。

市民の方々が、道路や河川、公共施設などの不具合や危険個所を発見した際に、現場の位置、写真とともに状況を報告してもらい、投稿された情報を閲覧できるというシステムです。閲覧はアプリやブラウザから、誰でも利用できます。

なお、本年度については、道路に関する通報に特化し、試験運用として実施されます。

【専用アプリのダウンロード方法とユーザー登録】

①ダウンロード

アプリストアで「FixMyStreetJapan」を検索し、アプリをインストール。

②ユーザー登録

アプリを起動し、表示される指示に従って個人情報を登録。登録したメールアドレスに確認メールが送信されたのち、記載されたURLをクリックしてユーザー登録が完了。

【問い合わせ】
市道路管理課
工務第一係
☎0246-22-7495

市民から投稿された▶写真(一例)

ふるさと伝言板

復興・久之浜漁港まつり

日時／10月16日（日）
9：00～
場所／久之浜漁港

住まいと暮らしの再建相談会

日時／10月29日(土)
①10:00 ②13:00
③15:00 (各90分程度)
場所／市文化センター
定員／9組(各時間3組)

◆お申し込みは開催日の3日前まで。

【問い合わせ】市ふるさと再生課
☎0246-22-7437

ふるさとPICK UP

防災を学んだ夏休み

8月10日、市消防本部及び平市民運動場で、市内の小学6年生を対象にした消防署体験入隊が行われました。消防職員の指導により、消防車からの放水や救助袋での降下などを体験。火災への心構えや地震から身を守るための備えについて学びました。

防火衣を着装して放水体験

新聞紙を使ってスリッパを作成

救助袋を使って4階から降下

❋プチ講座❋ なるほど！いわきの歴史コーナー Part.13

在りし日の江名鉄道

江名鉄道は、小名浜の栄町と江名を結んでいた鉄道で、人や鮮魚などを運ぶため、昭和28年1月に開通しました。その直後、ガソリンの輸入が全面的に解禁され、輸送は貨物自動車が主流となり、鉄道経営は苦境に立たされる状況が続きました。

唯一、経営を助けたのは海水浴列車でした。昭和35年には小名浜海水浴場が閉鎖されたこともあり、磐城市観光協会は永崎海水浴場を全面的にPR。臨時列車「くろしお号」は中通りからの海水浴客を乗り換えなしで永崎駅へ運び、賑わいを見せました。

しかし、永崎海岸の海岸線を通る江名鉄道は、海からの高潮と度々襲われる台風の影響で路盤が侵食され、補修のための資金繰りができなくなり運転を休止。昭和42年11月に廃止となりました。

昭和30年代半ばの永崎海岸と江名鉄道(提供：比佐不二夫氏)

現在の永崎海岸付近の様子(提供：いわき市)

ふるさとだよりの記事が動画でも見られます！

① COCOAR アプリをダウンロード
iPhone/iPad「AppSTORE」から
Android「Google Play」から

②インストール後、アプリを起動すると右記のマークが表示されます。
③このマークをタップします。
④画像をスキャンします
⑤認識するとコンテンツが表示されます。

※画像に光が反射しないようにスキャンしてください！
注)ネット環境によって表示に時間がかかる場合があります。